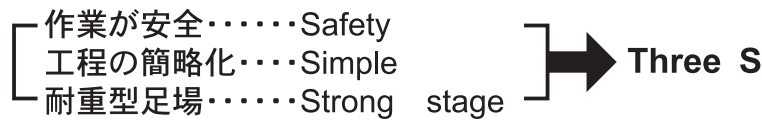


超厚スラブ構築物工事の省力化にT・Sサポート工法

社団法人仮設工業会・承認審査委員会による
仮設構造物等の安全性に関する承認制度



承認第3号 (φ60.5)

特長

- 工期の短縮…足場を兼用する支保工のため、枠組足場工法に比べ、配筋、型枠作業足場を型枠支保工に組替えをすることがなくて省力化が計れ、工期の短縮に役立ちます。
- 高い支持力…枠組足場(脚柱)に比べ1柱当り2倍以上の支持力があり、全体に煩雑さがなく、すっきりと組上ります。
- 作業性の向上…枠組支保工に比べ、支柱のピッチ、スパンが大きくとれ、また筋違がないため前後左右、自由に移動でき、作業性が大幅に向上します。
- 簡単な組立…各部材の接合は差込及びクサビ打込みですので、組立、解体が非常に簡単かつスピーディです。
- 楽な搬出…狭い穴よりすべての部材を搬出することができます。
- ドブメッキ仕上げで防錆性に優れています。

■用途

ボックスカルバート・共同溝・地下鉄・橋脚・橋梁・下水処理場・原子力発電所・仮設ステージ・倉庫

■組立手順

- ①割計画に従い墨出し作業及びジャッキベースの配置を行なう。
- ②配置されたジャッキベースに根ガラミ用ポケット金具を落とし込む。(注)ジャッキのハンドルの高さは計画図に従いそろえておく。
- ③根ガラミ用ポケット金具につなぎ材を順次取付ける。(注)つなぎ材の締め方向に順次取付けて行く。
- ④ポケット金具のホゾ材に最下段建地(第1段目)を差し込み、ロックピンにて抜け止めの処理をする。
- ⑤建地材の建込みが終了した部分より、つなぎ材を片方向に順次取付けて行く。つなぎ材を取付ける高さはポケット金具より1700mm以内とする。
- ⑥第1段目の床に合板足場板等をセットする。昇降用の階段枠を上下のつなぎ材間に取付ける。
- ⑦手摺り及び階段手摺を取付ける。
- ⑧第1段目の床を利用して上段のつなぎ材を取付ける。以下⑦～⑧の手順で作業を進める。
- ⑨第1段目の建地高さまで作業が終了したら第2段目の建地材を差し込む。
- ⑩建地材(調節材)が所定の高さまで組立てたらカラー材を落とし込む。
- ⑪大引受けジャッキを建地材(調節材)の頭部に差し込む。
- ⑫大引受けジャッキを使用高さに調節する。
- ⑬大引材の角パイプ100×100等を配置する。大引受けジャッキに偏心荷重がかからない様に大引材を配置する。
- ⑭根太材の角パイプ60×60等を配置する。
- ⑮合板又はスチールフォームを配置する。

■壁つなぎと取付け間隔

壁つなぎ金具は、構造企画適合品を使用し、取付間隔は単管足場に準じて垂直方向5m以下、水平方向5.5m以下に取付ける。

■積載荷重

単管足場に準じて1スパン(L=1800mm)400kgを限度とし、1スパン当り同時積載荷重は2層(800kg)までとする。

■足場の高さ

足場の高さは、31mを限度とする。